

令和5年度 子ども大学にいざ

1. 実施体制

子ども大学にいざ	学長	志村 二三夫（十文字学園女子大学学長）
	副学長	
子ども大学にいざ実行委員会	実行委員長	星野 敦子（十文字学園女子大学研究担当副学長、教育人文学部 児童教育学科教授、地域連携推進センター長）
	実行委員 （関係団体）	新座市教育委員会、十文字学園女子大学、新座市ボランティア団体雑 木の会

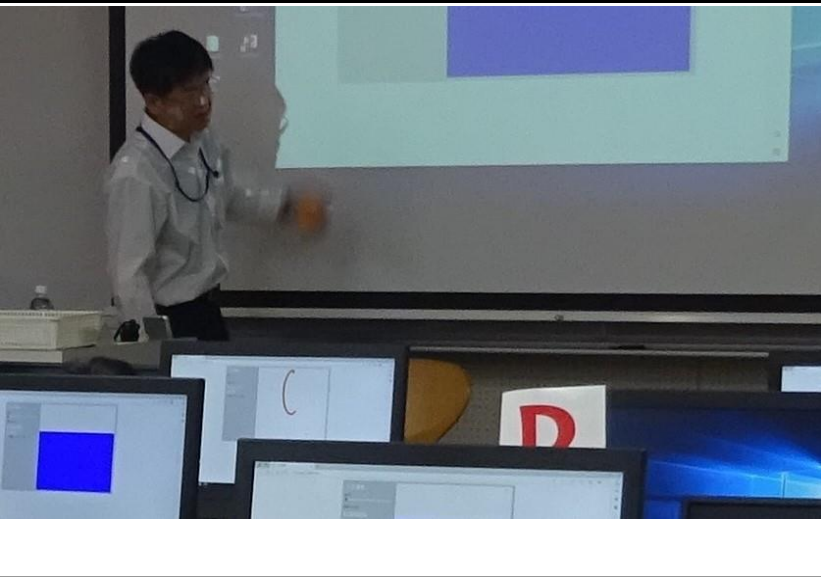

2. 事業内容

開催回数	2回	開催期間	令和5年8月24日、26日			
参加者数	1日目36名、 2日目35名	内訳	小学4年生	17名	17名	
			小学5年生	10名	9名	
			小学6年生	9名	9名	

1日目

2日目

3. 実施内容

1 日目	開催日時	8月24日（木）		
		9：50～11：20		
学	会場	十文字学園女子大学		
	講義名	太陽系のお話 ～パソコンで天体を動かしてみよう		
	講師	十文字学園女子大学 社会情報デザイン学部教授 北原 俊一		
				宇宙を自由に移動して、天体の位置、特徴、太陽系について学びました。
2 日目	開催日時	8月26日（土）		
		9：15～11：15		
学	会場	十文字学園女子大学		
	講義名	惑星模型をつかって、太陽系の広がり調べてみよう		
	講師	新座星空クラブ 副会長 齊藤 政登		
			自分でつくった惑星の模型を実際に並べ、太陽からどれくらいの距離にあるかを学びました。	

4. 参加者の声

参加した子供の声 (感想)	<ul style="list-style-type: none">・この学習で分かったことや、心にのこったことは、国際宇宙ステーションが毎秒7.7kmの速さで進んでいることです。・最初で、きんちょうしていたけど、先生がおもしろく、色々な事を楽しく学べました。太陽系の事で分からない事はたくさんあったけど、授業で分かった事が増えた。プログラミングで、地球の周りを「何」が「何秒」かけて回っているのかなどを、自分で探したので、心にのこりやすく、覚えられた。・えいせいは何kmを何時間でまわっていたかを知れた。・宇宙の事、星のことをあまりしらなかったのが、良かったです。・パソコンをつかって、天体をうごかすのがおもしろかったです。・惑星を作るのがむずかしく、かなり時間がかかってしまいましたが、つくれたのでよかったです。天体を動かしたのがたのしかったです。・住める星は火星だけだと思っていた。しかし、タイタンなどの星があり、この星には、水があるだから住めるなどが心に残った。
保護者の声 (感想)	<ul style="list-style-type: none">・模型作りでは地球を作りました。地図よりもっと日本の小ささを感じることが出来ました。子ども大学で学んだことを自由研究の中で紹介しました。クラスのお友達にも興味を持って見てもらえたら良いと思います。・子どもは天文学が好きでとても楽しかったようで、もっと通いたかったと話してくれました。・講義数は2日くらいでちょうど良いかと思いましたが、娘は違う内容で講義数ご数日多くても良かったと感じているようでした。大学生に対する憧れもでき、よい刺激となりました。・子供がとても楽しんでいたので参加して良かったです。・子供に大学の雰囲気を経験させることのできる、良い取り組みだと思っています。 わが子にとっても今まであまり興味を持っていなかったことに興味を持つ、良い機会となりました。 次のステップとして、中学生向けの開校も視野に入れていただけると有難いです。・分かりやすく楽しんできたようです。子どもが低学年の子が模型を作るのに苦戦していたみたいと言っていたので、分けてもいいのかなと思いました。・本人が、今日だけ大学生！と誇らしげだったのが印象的でした。・興味がある事をもっと広げて知識を得る事による楽しさを感じさせてくださって大変感謝しております。・子どもの夏休みの宿題の種のような物にもなる内容なので、夏休み前に受講出来ると夏休みを通して受講したことが生かせるのではないかと思います。夏の終わりだと宿題にいかせません。勿体無いと思いました。 短い時間の中でぎゅっと内容を凝縮した為、作業時間が短く焦らされてしまったようです。もう少し余裕を持たせたスケジュールを希望したいです。・色々な事に興味を持ち学びたい欲がある方だと思いますが、大学ってどんな所とゆうのが体験で分かったようでした。